

ニュースレターくもと News Letter Kumamoto

春
April
2012
vol. 93

■ Publisher : Kumamoto City International Foundation
KCIC 4-18Hanabata-cho, Chuo-ku, Kumamoto City, 860-0806
Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL : <http://www.kumamoto-if.or.jp/>

■ 発行 : 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
Tel : 096-359-2121
e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL : <http://www.kumamoto-if.or.jp/>



CONTENTS

2012年新年度のご挨拶	1P	ちょっといわせてはいよ	5P
多文化共生シンポジウム	2・3P	世界を知る	6P
KIFレンタサイクル事業/ホームページリニューアルのお知らせ	4P	未来のために	7P
		ちょっと日本語・きふプロ	8P

2012年 新年度のご挨拶

～一般財団法人としての新たなスタート～



吉丸良治 新理事長

2012年4月、熊本市国際交流振興事業団(以下、KIFと記述)は、新しく一般財団法人として船出します。(国の公益法人改革により、2013年12月までに公益財団法人あるいは一般財団法人どちらかへ移行する必要があります。)最初の理事長には吉丸良治熊本県文化協会副会長にご就任いただき、国際化の推進と文化振興を行い、地域の活性化と醸成に寄与することにより、恒久なる世界平和と安定に資することを目的に、事業を立案、実施してまいります。

時を同じく、政令指定都市「熊本市」が誕生します。熊本市は、「世界へ開かれた活力ある都市の実現」(2010年、熊本市国際化指針の理念)をめざし、中国・上海の熊本県・熊本大学との共同事務所の開設、アジアンホリデー事業の実施など東アジア戦略(熊本市の存在感を示し、東アジアから選ばれる都市になる!)を展開しています。また、2009年の出入国管理及び難民認定法の大幅な改正が7月から施行され、3ヶ月を超えて正規に日本に滞在する外国人「中长期在留者」に「在留カード」が、「特別永住者」に「特別永住証明書」がそれぞれ発行されます。一方、彼ら外国人が住民基本台帳に初めて登録されることとなります。(外国人登録制度は廃止)

KIFは、このように法人自体、そして社会の大きな変化に対応しながら、「すべての人が安心して快適に暮らせる開かれた社会」の実現をめざし、2012年度に次のとおり事業を計画しています。

1.多文化共生社会づくり推進事業—「国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていける社会」の構築を推進します。(多文化共生オフィス、多文化共生地域サポート、日本語支援事業、外国人のための防災、教育サポートなど)

2.地球市民育成事業—グローバルな視点から地域社会を理解し活動できる人材を育成します。特に、若い世代のアイスクリーミング力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ファシリテーション力を高めるための多様な機会を提供します。(国際ボランティアワークキャンプ、ラオス協力プロジェクト、ボランティア活動推進、世界をよく知るセミナー、地域国際化推進事業など)

3.国際化推進事業—海外諸国事情、異文化相互理解、多言語習得等の市民の興味、関心ニーズに対応し、市民レベルの国際化を推進します。世代、生活リズム等市民、それぞれの事情に合わせ多様な事業展開を図ります。熊本市の国際化の拠点施設である熊本市国際交流会館の国際交流サポートセンターで市民の国際交流へのニーズを支援します。(語学講座、異文化理解サロン、海外紹介、韓国ホームステイツアー、火の国まつりへの参加、イヤーエンドパーティーなど)

4.文化施設管理運営、まちづくり推進事業—①国際交流会館で国際化の拠点施設としてふさわしいサービスを提供します。ホール・会議室を安全に安心してご利用いただくと共に、公平な貸出サービスを行います。また、熊本市国際交流会館のホール・会議室の規模にあった文化芸術を国際交流と連携させながら振興します。②熊本城に近く中心市街地にある熊本市国際交流会館を拠点に、国際交流・協力団体やまちづくり団体の皆さんと連携を図りながら、市民協働のまちづくり推進を行い、熊本市の活性化を促進します。(NGO協働「SAKURA」祭、レンタサイクル事業など)

各事業は年間をとおして開催、ホームページやチラシ広報でご案内します。詳細につきましては、お気軽に事務局へお問い合わせ下さい。

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団

Tel:096-359-2121

URL:<http://www.kumamoto-if.or.jp/>

多文化共生シンポジウム IN くまもと ～地域住民としての外国人と日本語～

去る2月18日(土)熊本県立大学中ホールにおいて、外国人との共生社会を考える「多文化共生シンポジウム IN くまもと～地域住民としての外国人と日本語」を熊本県立大学と共催しました。今回は、本年7月9日から新たな在留管理制度がスタートすることを踏まえ、日本に暮らす外国人に対する日本語支援がどのようになっているのか、また、他の国はどのように対応しているのかを言語保障という側面から考えてみました。

第1部「地域日本語教育プログラム開発」報告

まず、熊本県立大学文学部日本語日本文学科の学生により、生活者としての外国人のための日本語テキスト作成についての報告が行われました。これは、熊本県の委託を受けて多文化共生社会づくり推進事業の一環として実施されました。内容は、生活に欠かせない「病院編」「緊急時編」「仕事編」の3つに分かれており、熊本県内外の地域日本語教室でアンケートやインタビューを行い、外国人住民の実情に合ったテキストに仕上げられています。通常の日本語教科書にはない、「熊本弁」や「テレビの緊急情報の読み取り方」「履歴書の書き方」などもアンケートを基に盛り込まれました。仕事編では、仕事を得た後のことについて書いてあるテキストが多い中、まずは「仕事をすることが大切」と考え、仕事に就くまでに絞って作られています。3月以降にインターネット上に公開される予定と報告がありました。

第2部韓国・ドイツの言語保障施策

次に、事例発表として韓国、ドイツ、熊本の言語教育の実情について紹介いただきました。

韓国(報告者：熊本学園大学教授 申明直氏)

韓国には中国、ベトナムからの移民が多く、ここ5年間で人数が倍増しています。就業、結婚する者も多いため、韓国語教育は必須となっています。韓国の農林業従事者の男性のうち、約40%が外国人と結婚しており、そこでは移民本人への語学教育だけでなく、生活を共にする配偶者等家族に対しても受入教育を欠かすことができません。そのため、韓国では国家や自治体が「多文化家族支援センター」を設立し、教育だけでなく仕事斡旋、通訳、相談、家庭内暴力などの問題解決に力を注いでいます。また、移民者が韓国籍を取得するためには、韓国語課程と多文化社会理解課程を学ぶ、移民者社会統合教育履修生制度を設けています。このプログラムには、移民者の家族を対象としたものも組み込まれており、韓国では移民が社会に支障なく溶け込めるよう、積極的にサポートを行っています。加え

て、法律で3年ごとの「多文化家族実態調査」と5年ごとの「多文化家族政策に関する基本計画」を実施することが義務付けられています。

ドイツ(報告者：元熊本市国際交流員 アクスト・フローリアン氏)

ドイツは、トルコやアラブなどのイスラム圏からの移民は、就業意欲や教育レベルが低く、ドイツ社会に溶け込もうとしないため、長年にわたり移民を警戒してきました。しかし出生率の低下に伴い、外国人が全人口の約8%を占めるようになり、統合政策の必要性が理解され始めました。ドイツの統合政策は2001年に本格化してきましたが、移民の5人に1人に言語支援が必要な現状であるため、ドイツの統合政策においても言語が最重視されていると言われます。「ドイツ語を学ぶ意思が無いのであれば、国内にいる資格はない」と強い姿勢をとり、配偶者ビザでさえドイツ語能力がなければ取得できない心配があります。その代り、全国に統合講座を開設し、ドイツ語の修得と、社会生活・文化の理解を深める学習の機会が提供されています。年齢や背景によって様々な内容のコースが用意されていますが、中には講師も受講者も女性限定というものもあります。これは移民の4分の1を占めるイスラム圏出身者の女性に配慮したもので、イスラム文化では、女性は家族以外の異性と接触が禁じられているため、その解決策として実施されているのです。

第2部(続き)熊本・日本の言語教育の実情

日本・熊本(報告者：中国帰国・外国人生徒の進学を支援する会 岩谷美代子氏)

私たちの国、日本ではどうなっているのでしょうか?岩谷氏によると、韓国やドイツのように明確な言語支援を国としては行っていないのが現状です。言語支援は主としてボランティアの人々に委ねられています。日本で暮らす外国人は「日本語が分からないので基本的な生活に困る」「家庭内、地域内で孤立している」など、様々な問題を抱えています。行政が個々の状況を正確に把握し、サポートできている訳ではありません。実際、日本語教育だけでなく、外国人の精神的なサポートも地域日本語教室やボランティアたちに委ねられています。教室運営も使用するテキストも予算が無い場合、ボランティアが自前で用意するなどボランティアの負担は大きいのが実情です。また、熊本市外においては、日本語が勉強できる環境さえないところもあります。このような事態を受けて、2009年に文化庁の委託を受け、地域日本語支援ボランティアコーディネーター養成実

実践講座を行いました。その後、地域日本語教室の数は増えてきましたが、日本語レベルがゼロ初級の外国人にボランティアが日本語を教えるというのはノウハウもなく難しく、通常週1回ペースの地域日本語教室では日本語の習得にも無理があるということで、新たな取り組みとして、熊本県の委託を受け日本語を学習した経験のない初心者を対象に1週間連続36時間で日本語の基礎文法を学ぶ初期日本語集中講座を行いました。1週間ですべての語彙を覚え、会話ができるようになるわけではありませんが、日本語の骨格がわかるということで非常に好評でした。最初にきちんとした日本語をプロの日本語教師が教え、その後を地域日本語教室のボランティアへ繋いでいくという仕組みが期待されます。

次に、熊本県内に編入してくる外国人児童のサポートについて報告されました。外国人児童たちは大人と違い、自分の意思に関係なく、両親の都合によって日本に連れてこられ、最初は日本語がほとんどできない状況で各校区の小中学校に編入してきます。熊本市内の学校に編入した場合は、ほぼ100%日本語の初期指導が受けられますが、熊本市外で対応できている自治体は、八代市と菊陽町だけです。県内どここの学校に入っても日本語指導が受けられるように「外国から来た子ども支援ネット」を数名の日本語教師の方々と作り、教材の提供や指導法などを教える活動をしてきました。現在では、外国人生徒と保護者のための進路ガイダンスや支援者の学習会、子どもたち同士の仲間作りなどのサポートもしています。最後に岩谷氏は外国人への言語保障について「日本に受け入れた以上、生活に必要な最低限の日本語は公的な機関が保障してほしい。」「日本語教育を地域日本語ボランティアに全面的に頼るのではなく、専門的な日本語教師の役割をはっきりさせ、外国人が日本語学習に負担なく取り組めるシステム作りが必要。」とまとめられました。

今後の多文化共生社会づくりのために

後半の質疑応答では、更に興味深い話を聞くことができました。



た。「(外国語指導の際には)農業で必要な会話など、場所に合った教材の準備が必要」「授業のために外部機関へ出向くことができない人のために、訪問教育が欠かせない」という申教授(韓国)の意見は、日本でも一部地域で実践されています。また、ドイツでは「多文化主義」を目指しているのではなく、「統合」を行ってきたため、外国人対象のドイツ文化講座はあっても、ドイツ人対象の他国の文化を学ぶ場はなかったそうです。しかし今後、学校でドイツ語によるイスラム文化の授業が始まるそうです。これはドイツにもっとも多く居住しているトルコ系の人々とのより良い共生を作る試みの始まりとなるでしょう。

まとめとして、コメンテーターの法政大学教授山田泉氏より、「人が生きていくうえで必要なことは、自分への誇りと、自分の社会への責任である。『社会が』『上が』と責任転嫁するのではなく、主権者は自分たち国民であるということ、一つの社会に対して、そこに暮らす人が、みんなと一緒に考えることが大切。」「自分は無関係、外国人のことは当事者がなんとかするだろうではなく、外国人住民と、コミュニティの一員としてどこかで繋がっているということ意識し、社会をよりよくするために自ら進んで行動を起こすことが大切」と総括されました。

国際掲示板

2012年(第14期)市民講座「ケルトの風」

「ハーンと熊本の人々」と題し、
熊本近代文学館館長 井上智重氏の講座を開講

【日時】

2012年5月19日(土) 14:00～15:30(90分)

【場所】

熊本県立図書館

「イエイツと日本」と題し、

熊本学園大学非常勤講師 伊藤裕起氏の講座を開講

【日時】

2012年7月21日(土) 14:00～15:30(90分)

【場所】

お菓子の香梅帯山店 ドゥ・アート・スペース

【問い合わせ先】

熊本アイルランド協会

<http://www.kumamoto-ireland.org>

Tel 096-366-5151 (お菓子の香梅内)

KIFレンタサイクル ～貸出自転車あります～

KIFレンタサイクル事業では、10台の普通自転車にH24年3月より、新たに2台の電動アシスト車を加え、よりご利用しやすく新たに運用をリニューアルしました。

熊本市国際交流会館では、観光客や市民の皆さんが手軽に利用できて、環境にも優しい交通手段である自転車を貸出しています。当館周辺には、日本三大名城の一つに数えられる「熊本城」を始め、昨年3月にオープンした観光施設「桜の馬場 城彩苑」、「旧細川刑部邸」、熊本市博物館、熊本県立美術館などたくさんのお見どころが集まっています。皆さんもぜひ、健康にもいい自転車で観光地めぐりをしてみませんか。電動アシスト車なら坂道もラクラク!最長連続7日間レンタルできます。詳しくは国際交流会館受付(096-359-2020)までご連絡ください。

【利用時間と料金】前金制です

①普通自転車

6時間まで 300円/6時間～終日 500円※

②電動アシスト自転車

6時間まで 500円/6時間～終日 700円※

※返却は午後9時30分まで(休館日は午後5時まで)です。

※①は連続利用(最大1週間まで)が可能です。

※②は連続利用は出来ません。

【自転車の仕様】

①普通自転車

仕様:26インチ自転車(カゴ付き)

※ギア変則機能は付いておりません。

台数:10台(グリーン、ピンク、イエロー)

②電動アシスト車

仕様:20インチ電動アシスト自転車(カゴ付き)

台数:2台(グリーン、レッド)



KIF ホームページが リニューアルオープン!

URL <http://www.kumamoto-if.or.jp>

見やすくなったメニューバー表示、サイト内のGoogleキーワード検索、Flashでのイメージ表示、etc.今まで以上に楽しく、そして、情報量が増えました(^o^)!

熊本市国際交流

検索

・特集コンテンツ

とっておきイベントなど…トピックスをFlash機能を使って、3つまで表示します!さらに、クリックすると詳細情報をゲットできます。



・講座募集案内

KIFでは、英語、中国語、韓国語、フランス語、イタリア語、スペイン語等、様々な語学講座を開設しています。講座の申し込み方法(電話、往復ハガキなど)や状況(受付中や空きがあるか)などの情報を見易くトップ画面で紹介しています。

・きふプロ

KIFで活動するインターンシップ生やサポートセンターボランティアの皆さんが綴るブログです。事業の裏側が見れるかも…

ボランティアの登録・依頼・活動のページ、KIFメルマガ(毎週のイベント情報)の登録ページ、イベントカレンダーも見易く一新されました。国際交流会館のホームページも、同時に、リニューアル!是非、アクセスしてみてください!

・キーワード検索

KIF サイト内の情報をキーワードで検索できるようになりました。



・イベントレポート

KIFイベントを写真でレポートします。さらに、写真をクリックしていただくと、皆さんの感想を投稿できます!参加いただいた方、参加出来なかった方、今後参加したい方、どなたでもお立ち寄り下さい。



ちょっと
いわせて
はいよ

今日の日はさようなら

2011年4月から中国国際交流員として熊本市役所へ勤務された廬芳輝さんが一年間の任期を終え、帰国されました。一年間の思い出をご寄稿いただきました。

熊本市 中国国際交流展 廬芳輝



石匠館の前で、留学生たちと。

歳のせいか時間がたつのが速いものだと感じてしまいます。熊本に来た最初の記憶をまだはっきりと覚えていますが、もう「さようなら」と言わなければなりません。梅雨がジメジメとした小雨だろうと思ったのですがなんと大雨！蒸し暑い夏に降る夕立ち、カラッと晴れていた秋、そして風が寒くて時々雨か雪が降る冬…季節がはっきり分かれている日本と言っても熊本の四季はほかの地方とは違うところが多いです。こうして、一年未満の交流員として熊本での生活を送ってきた私はこの春を迎えて、帰国することになります。春になれば気持ちも一転するとよく言われ、確かに、私は、緑が増えつつ、迎春や梅の花が相次いで咲き始める熊本の季節の変化を楽しんで毎日市役所へ通勤しています。

振り返れば、初めて日本で生活と仕事をするせいか、いろいろ大変でしたが、いい勉強にもなりました。旅行や短期研修の滞在とは違う体験もたくさん出来ました。仕事の内容は主に翻訳と中国語のチェックですが、月に「外国を知ろう」サロンが2回と「つきいち世界を知ろう」（子ども対象）1回と中国の文化を中国語で紹介する「中国語サロン」、学校訪問2回か3回も含まれています。また、公民館か他の施設で一般市民の方々と一緒に料理を作ったり、話し合ったりしたほかにも、大学生と高校生と阿蘇で国際ボランティアワークキャンプに参加し、雄大な阿蘇高原の自然に感動しました。また、来熊した訪問団と研修生のための出迎えや通訳なども仕事の一部分でした。変わるテーマ、違うお客さんでいずれも新鮮味が味わえる仕事でした。翻訳や通訳によって、自分の言語能力が鍛えられたし、サロンを通じて、日本やほかの交流員の国の文化習慣や考え方の違いが分かるようになりました。学校訪問と

「つきいち世界を知ろう」で親切な先生方と可愛い子供たちと一緒に遊んで、楽しい思い出がいっぱい出来ました。学校の給食も美味しかったです。

今年の1月、上海事務所の開所式、第1回の熊本城国際マラソン大会など記念すべきイベントに参加できてとてもラッキーで感謝しております。市役所と上海事務所の職員の仕事ぶりにはいつも感心しています。熊本の美味しい湧水、素晴らしい自然と豊かな歴史史跡、美味しい農産物と魚などをもっと世界にPRしようとする気持ちがよく分かります。同じように自然と歴史が豊かな広西壮族自治区から交流員として参りました私にも何か相互交流に役立つことができればいいなあと常に思っております。

中国にいる友達から「熊本に来てどう思う？」と聞かれましたが、「友達ができてよかった」と答えました。買い物に連れて行ってくださった方、親切に声をかけてくださった方、引っ越しの時に手伝ってくださった方、遠足に連れて行ってくださった方、「ありがとうございました。」お陰様で寂しくなく、充実した日々を送ることができました。中国に帰って家族や友達や学生たちに伝えられることが一杯あります。

皆さん、「今日の日はさようなら」という歌、ご存知ですね。今日の日はさようなら、また逢う日まで…



阿蘇で。



クリスマスに友達と。



動植物園市民コミュニティーセンターの
ハイディー英会話クラスで。



菊池で。



世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構（JICA）デスク熊本のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

ジャカナカ(Good)ジンバブエ!

青年海外協力隊
平成23年度2次隊
職種：音楽(任地ジンバブエ、合志市出身)
むらた ちあき
村田 千明さん

マスカーティ(こんにちは)! 青年海外協力隊のピアノ教師としてジンバブエ共和国にいます村田千明です。ジンバブエ共和国と聞いて初めて聞いた国が、なんとなく聞いたことある国くらいの方が多いかもかもしれませんが、ジンバブエの言葉であるショナ語は、ローマ字読みと同じであり言葉にもタナカ、ゾウなど同じ発音のものがあ、遠く離れた国なのになぜかいろいろ日本との共通点がある国なのです。

ジンバブエはアフリカ大陸の南端、南アフリカ共和国の北に位置しザンビア、ボツワナ、モザンビークに囲まれた海の無い内陸国です。気候は1500メートルの高地に位置していることもあり、暑すぎず寒すぎず突き抜けるような晴天の毎日です。また、ジンバブエの識字率はヨーロッパと同等という統計が出ており、ほとんどのジンバブエ人が英語と現地語のショナ語を流暢に話します。1980年にイギリスの植民地から独立し、今はムガベ大統領の独裁政治国といわれているジンバブエですが、いまだに多くの白人がジンバブエに住み続けており、停電や断水が頻繁に起こってもなお、黒人ジンバブエ人も白人ジンバブエ人もみなジンバブエを愛しています。

そのようなジンバブエの首都ハラレにあるジンバブエ音楽学校で昨年の10月からピアノ指導にあっています。この1月から始まったタームでは、週5コマのクラスとプライベートレッスンを受け持っています。クラスの授業では昔

から使われているイギリスのグレードに沿ってピアノの弾き方を1から教えています。1時間1コマの授業でグループレッスンのような形をとり、7台のキーボードを2人ずつシェアしながら授業を進めています。生徒はみな黒人でいたい私くらいの年齢からおばちゃん世代の人たちです。プライベートレッスンでは1対1でピアノを教えています。プライベートレッスンは学校の生徒ではなく、子供から大人までピアノを習いたい人が来ています。ジンバブエはキリスト教が盛んで、いつも教会でゴスペルなどを歌うので、人々の音楽を演奏することに対する憧れが強いように感じます。

学校外の活動では2月4日にCHENESA HARARE(Keep it clean)と言うゴミ拾い活動を行いました。これはジンバブエにいるJICAの帰国研修員と合同企画したもので、ジンバブエ国営放送にも生出演させていただき、ゴミ拾い企画の趣旨や重要性を宣伝しました。当日は100人を超える方々が集まり、みんなでハラレガーデンを清掃し綺麗な公園を実現させることができました。

その他では、老人ホームでピアノコンサートを開いたり、教会や結婚式、学校のコーラス部のコンサートでバイオリンを演奏したりしています。教えるだけでなく自分が演奏することで、ジンバブエではあまり耳にすることがないクラシック音楽を広めています。



未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について
専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。

多文化共生における新たな視点

今回の東北大震災を受けて「広域災害」「複合災害」という新たなキーワードが生まれました。支援の視点からは、時間の経過と共に、緊急支援・復興支援・地域おこし支援というステージが確認されました。災害は、同じ地域でも違う顔を持って表れます。また日常が増幅されるのが、災害だとも言われています。東北に関して言えば、過疎が大きな課題として横たわっていたところに、災害がおき、地域の過疎化が加速的に進みました。このおおきな課題の中に外国籍住民の問題があります。多文化共生という小さな視点だけでは解決できない多くの課題が出てきています。介護、子育て、情緒障害を含む心身障害、病気、医療、保険、死後の取り扱いなど、複雑・多様化をしています。それは在住の長期化により外国人問題というよりは、私たちも含めた地域の課題の中に外国人も取り込まれているのです。これに対応するためには、多様性をもったアクターによる問題解決が必要とされています。経済が右肩下がりになっている現在では、全ての課題を行政が解決することは不可能です。なぜならば、行政は悪平等といわれるほどの平等性を前面にださなければいけないからです。一方、民間主体の問題解決は、ニーズの高いところを優先的に実施できる特性があり、平等性よりも自由度が高くなっています。ただし、資金に大きな問題があります。昨年3月に国会を通った「寄付行為に対する税控除」は今後大きな可能性となります。この資金的課題解決のために多様な主体の連携システムを行政と民間が対等なパー

トナーとして協働することが必要となります。そのためには、地域文化としての寄附を通じた基金の立ち上げが重要です。

ボランティアの存在は、阪神大震災以来、復興への大きな役割を担っています。個としてのボラ

ンティアと現地ニーズを結ぶためには、社会福祉協議会を中心としたボランティアセンターが中心となりますが、これだけでは多様性に対応することはできません。そのため、多様なNPOが参加できるようにする中間支援組織が必要となります。長岡ではこの中間支援組織をバックアップセンターと呼び、市、社会福祉協議会、民間の三者が連携して、この甚大な災害に対応してきました。さらに市民協働条例が制定され、日常の課題に対応しました。この中に外国籍住民に対応する視点をもった文化通訳、言語通訳、また災害時の多言語支援センター、日本語支援等の担い手が必要です。

異質のものを排除するのではなく、新しい視点として取り入れることが地域おこしをベースとした協働の連携システムに繋がると思います。



筆者:羽賀 友信さん
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
新潟NGOネットワーク顧問
JICA地球ひろば 国際協力サポーター
長岡市教育委員、JICA専門家
※当事業団多文化共生アドバイザー

あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協元に感心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

*webでも公開しています。(<http://www.kumamoto-if.or.jp/>)

発行:年4回(4月、7月、10月、1月) 部数: 3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(区役所、市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ(この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金:1/8のおためしサイズ(1回) 5,000円単発(1回) 20,000円、半年契約(2回) 30,000円

年間契約(4回) 40,000円

★まずは、1/8のおためしサイズ(1回5,000円)で貴社の情報を発信しませんか!

ちよつと日本語

ちよつと日本語 Japanese Tip

「ほめる」こと

NPO法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

だれでも「ほめられる」とうれしいものです。ところが、学生から褒められる時はちよつと違います。「今日、先生はよくおしえました」おもわず、「はっ！おぼっちゃま・ありがとうございます」といいたくなります。「先生は教え方が上手です」これも変。つまり、私たちは「褒める」行為や「褒めことば」は目上やプロの技術に対しては使わないのではないのでしょうか。もうひとつ、これを書いているときに大学受験に失敗した学生からメールをもらって「先生はよく教えました。でも、私の試験は不合格でした。先生お世話になりました。ありがとうございました。」こんなメールも変でお送り手の安否が気になります。ちよつと変、でも褒められるとやっぱりうれしい？

きふブロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ
インターネットではもっとたくさん紹介しています。
URL <http://kifblo.blog.ocn.ne.jp/blog/>

こんにちは！ 私は、熊本市国際交流振興事業団で、インターンシップをしているシャッフロード・アントニアです。ドイツから来ました。私の趣味は、水泳と読書と音楽鑑賞です。今回は、4回目の日本滞在になりますが、私が初めて来た日本は、熊本です。というのも私の生まれ育ったハイデルベルグは、熊本市と友好都市協定を結んでいて、私は、2009年の青少年交流事業に参加し、熊本のパートナーの家にホームステイをしました。2010年は、滋賀県に行きました。滋賀県には、友達と両親が住んでいます。その時、大阪、京都と神戸に行きました。とても楽しかったです！3回目は、福岡に行きました。福岡のNPO団体である「グラウンドワーク福岡」でインターンシップをしました。目が見えない子供たちや年配の方の手助けをしました。学ぶことも多く、様々な経験をすることができました。私は、日本のことが大好きなので、毎年、日本に来ています。日本の食べ物も大好きです！一番好きなのは、日本のカレーと焼きそば、しゃぶしゃぶです。魚も大好きです。私が日本語を勉強したい理由は、響きがきれいだと思うからです。日本語の曲を初めて聞いたとき、「その言葉を学びたい！」と思いました。その曲が日本語の歌であることすら知らなかったのですが、その時から日本に興味を持つようになりました。私の一番好きな音楽は、J-POPです。バックチクとX Japan、浜崎あゆみ、ジェロ、Acid Black Cherryが好きです。なので、カラオケも大好きです。ドイツには、日本好きのドイツ人がたくさんいます。アニメや漫画が好きという理由からです。だけど、私は、他にもたくさんの魅力が日本にはあると思います。私は6月上旬まで、約三ヶ月間熊本に滞在します。とても楽しみにしています。みなさん、どうぞよろしくお願ひします。



アントニア

☆平成24年度賛助会員募集!!

熊本市国際交流振興事業団では新しい平成24年度の賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニューズレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催の外国語サロンへの参加チケットや、当講座の受講料会員割引、国際交流会館駐車場の割引特典もあります。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

平成25年3月までの会員期間となります。

＜入会のお申し込み・お問い合わせ＞

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

継続・新規ご加入ありがとうございました

(平成24年3月10日現在) (個人)50音順(敬称略)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 井手亜寿美 | 岡本 里織 | 永井 君代 | 宮下 雅代 |
| 岩津 真里 | 河野 世津 | 西 健二 | 森永ひろみ |
| 浦本 百恵 | 田中 博子 | 服部充智子 | 若松 藍 |
| 大石 千鶴 | 田中 良成 | 松山 理香 | |
| 大賀とよこ | 田上 佳代 | 三隅 美帆 | |
| 太田 直子 | 徳永 志保 | 宮腰 晃一 | |

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！
(団体)50音順(敬称略)

- 阿蘇ハイランド開発株式会社
- 医療法人社団 愛育会 福田病院
- NIコミュニケーションズ+キャリアアウェーブ
- 学校法人 君が淵学園 崇城大学
- 株式会社キャッツ
- 株式会社県民百貨店
- 株式会社熊本シティエフエム
- 株式会社サンカラー
- 株式会社JTB九州熊本支店
- 株式会社ニュースカイホテル
- 株式会社北翔工業
- 学校法人 鎮西学園
- 九州産交リゾート(株)熊本交通センターホテル
- 九州農水株式会社
- 熊本液化石油ガス事業協同組合
- 熊本学園大学
- 熊本市教育委員会学校教育課
- 熊本城桜の馬場リテール株式会社
- 熊本地域婦人会連絡協議会
- 熊本日独協会
- 熊本日米協会
- コスギ不動産
- 財)熊本市駐車場公社
- 志成館高等学院
- 下田れい子お筆教室
- デイスカパリーくまもとボランティアの会
- 西日本電信電話株式会社 熊本支店
- マルヒサ食品
- ㈱ビジネスマン 新熊本ホテル
- London Bridge International School



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩 3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩 3分

from Aso-Kumamoto Airport-45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho" tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前9時～午後8時
多文化共生オフィス(午前11時～午後6時)
096-359-4995(直通)

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00 a.m.-8:00 p.m.
Multicultural affairs office (11:00a.m.～6:00p.m.)
096-359-4995 (Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th～Jan 3rd